

谷津田観察日記①

「葦」(アシ?ヨシ?)の葉の不思議

松下 恵美子



写真①

休耕田に多く見られる葦。田んぼををやめてしまい人の手が入らなくなると、待ってましたばかりに田んぼ一面葦原となってしまう。学校田んぼや YPP 田んぼも葦原だったところを田起こしした。十年以上も休耕田となってしまうと、田んぼに戻すのはとても労力があるため、葦原というよい印象がない。だが、谷津田のような泥深い田んぼに葦の根が何層にも広がると、山からの清水と一緒に流れでてくる土が堆積する。そうすると表面の田起こしさえすれば、さほど沈むことなく田んぼの中を歩けるようになるため、葦原は悪いことばかりでもない。

「葦」と書いて「アシ」とも「ヨシ」とも読む。もともと「アシ」と読んでいたが、「悪し」では縁起が悪いと「善し(ヨシ)」になったという説がある。日本書紀では日本の国を「豊葦原の国」というくらい古来から葦は身近にあった。「人間は考える葦である」と言ったのは 17 世紀のフランスの思想家パスカルだ。「人間は自然において脆弱で葦の一茎に過ぎないがそれは考える葦として、思考する存在としての人間の本質を表現したもの」(大辞林第 3 版)とあるように、葦は日本だけではなくフランスでも身近にあったようだ。その存在は風が吹けばしなやかにびき、しかし、決して折れることなく立ち続けることができるものの象徴として例えたものとなっている。



写真②

そんな万国共通どこでも生えている葦だが、その生態には不思議が多い。まず、日本各地で伝説となっている「片葉の葦」。普通は、写真①のように左右交互にバランスよく葉が生えてくる。しかし、写真②のように片側に葉が偏った葦が一面に生えていると日本各地で報告されており、各地域で「片葉の葦」にまつわる逸話が存在する。浜松の遠州七不思議には、少年だった秀吉が草刈り中に鎌の切れ味

を試すために葦の葉を刈ったので片方になってしまったとか、ある英雄の乗った馬が葦の葉を食らったため片葉になったなど、諸説さまざまある。

しかし、葦の葉が片方だけになるのは“自然のいたずら”だった。「葦の葉は、茎の周りをまわることができ、特に風の強い所に生えている葦がこのような片葉になることは珍しくありません」とのこと(千葉県立博物館)。実際、葦の葉を手でぐるぐる回すと、簡単に片葉の葦を作ることができた。このことは 10 年来、谷津田通いをして、初めてわかったことだ。

ある日、「不思議な葦があるのだけれど」と右の写真③の葦を見せられた。片葉になっているだけでなく、上下の葉が絡まるように編み込まれている。最初はクモか何か虫の仕業かと思った。実際、コマチグモは葦の葉に卵を産み付けて、写真④のように器用に葉を折って卵を守る。他にも写真⑤のように葉をクモの糸のようなものでぐるぐる生き物もいる。葉を分解すると、中にはガの幼虫らしきものが葉を食べたり、フンをしたあとがあった。だが、写真③の葦の葉にはクモの糸を巻き付けたあともなく、分解しても生き物の姿もなく、上の葉が下の葉先にきれいにねじれて絡まっていた。

※コマチグモは毒グモで噛むクモですので、むやみに葦を開かぬようにしてください。



写真③

インターネットで調べてみたが、「クモの仕業」



写真④



写真⑤

か「何かの目印として人が作ったのでは?」としかなかった。葦が茂る田んぼの真ん中で、わざわざ人が手を加えるとは考えにくく、どのような生き物が何のために葉を織り込んだのか不思議に思い、調べることにした。

ことにした。



写真⑥

様々な葉の生え方が可能となっているのだろう。

それから毎日のように葦原をのぞくようになり、いろいろな葦の葉を見つけることができた。写真⑥のように隣の葦の葉と手をつなぐようにくっついているものもあれば、新しく生えてきた葉がおじぎをするかのように曲がっていて、下の葉先とくっついてしまっているものもある。しなやかで自由に曲がる茎のため、

ている。これを分解してもやはりクモなどの生き物は見あたらなかった。

こうした現象は、新しい葉が生えてくる過程で葉どうしがつながったり、新し葉が古い葉を突き破ってつながりしているのではと仮説をたててはいるが、なぜ、このようなかたちになるのかはなそのままである。



写真⑦



写真⑧

ある日、写真⑦の葦を見つけた。新しく生えた葦の葉は、笹の葉のような形をしているが、下の葉と新しい葉がくっついて大きくなり、ねじりこまれたようになっている。これは写真③の葦の葉に近い。分解しても、やはり中には何もいなかった。ほどいた葉は30分もすると、ねじれが戻ってふつうの葉のようにぴんとなった。どうやらねじれた新しい葉が下の葉に向かってのびてしまっただけのようだ。写真⑧では、上の段の新芽が下の段の葉に入り込んでしまっていることがわかる。

背丈を超える葦がびっしりと生えている葦原は、キジやオオヨシキリなどの鳥、カマキリやトンボなどの昆虫の住処、またカヤネズミの巣づくりの場といった認識しかなかった。しかし、葦そのものをじっくりと観察すると、片葉、折り曲げられた葉、下葉にくぐられた新しい葉、隣の葉とつながっている葉、1段下の葉とつながってしまっている葉など、葦の葉が作り上げる不思議な現象を見つけることができた。

クモの仕業と思いこんでいたが実際には違っていた……。人間の思い込みを超える不思議が自然には多々あることを教えてもらえた。今では葦原をのぞき不思議なかたちのものはないかと探るのが日課になっている。

谷津田で不思議な葦の葉を見つけた方や、葦の葉が七変化してしまう原因がおわかりなる方など、みなさんからのご報告をお待ちしております！



写真⑨

写真⑨の葦は、下の葉を突き破るように新しい葉が生えてしまい、破れた葉が他を束ねたようになって

谷津田の生き物 番外編 ～ 毒をもつヘビ（ヤマカガシ、マムシ）

「兵庫県の小学生がヤマカガシにかまれて一時意識不明の重体に！」というニュースがあり、YPPとしても田んぼ活動をするにあたり、ヘビにかまれないような対策やかまれた際の対処などを確認しました。

ヤマカガシは、田んぼに多く生息しています。谷津田の丘陵部に位置するあすみが丘の町中でも見かけることがあります。毒をもつヘビですが、性格は穏やかで安易に触れるようなことをしなければかまれることは滅多にありません。かまれる事故例があまりにも少ないため、血清を保存している病院も全国で数えるほどです。今回、小学生がかまれたのも、ヤマカガシが嫌がるようなことをしたから起こった事故のよう

です。ヤマカガシにかまれると、かまれた場所に痛みや腫れはあまりないものの、徐々に毒が回って全身に出血を起こし重症化します。

毒性はハブやマムシよりも強いので十分な注意が必要です。今回の事例でも噛まれてから発症までに時間がかかっていますね。また、ヤマカガシは奥歯だけでなく、首周りにも毒をもち、危険を察するとその毒を敵の目に向かって噴射することもあり、失明の危険性もあるそうです。ヤマカガシより事故例の多いマムシは稲刈り時期になる9月に産卵期を迎え、卵を抱えたメスが藪の中から出てきて日光浴をするため、人間と出くわすことが多くなります。いずれにせよ、藪や草原にはむやみに立ち入らず、ヘビを見つけたらそっと離れることを心掛けていただきたいと思います。万が一ヘビに噛まれてしまったら……。市に問い合わせたところ、すぐに救急車を呼び、対応してくれる病院を探してもらうことが一番だそうです。



ヤマカガシ



マムシ



里山たんけんレポート

第211回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2017年8月6日(日) 晴れ

昨年から始めた川の生きもの調査とウシガエル(特定外来生物)の捕獲駆除を兼ねて行いました。田んぼ沿いの小川に入ってジャブジャブと、たも網に追い込みながら獲ったり、捕獲用わなを仕掛けたりして獲りました。

魚は昨年同様8種その他、スジエビ、アメリカザリガニなどを捕えました。ウシガエルは成体もオタマジャクシも確認できませんでした。幸いこの付近では繁殖していないのではないかとおぼやかされましたが、今後も注意して見守ることにしました。小川にはハグロトンボがひらひらと飛んでいました。

樹液の出ている木にはカブトムシがたくさん来ていました。発生期のようです。

暑い夏の一日、大人も子どもの頃に帰って川に入って魚獲りに興じ楽しいひとときを過ごしました。

(参加 大人8名、大学生3名、小学生2名、幼児1名; 報告: 網代春男 写真: 田中正彦)



第209回 下大和田 YPP「かかしづくり」

2017年8月13日(日) 晴れ



12日の朝が雨模様であったため1日延期して行いました。予定変更で参加出来なくなった方にはお気の毒でした。

かかし作りにかかる前に例年の通り、お米の作柄予想をしました。参加者それぞれがランダムに選んだ5株のひと株あたりの稲穂の数と5つの穂のひと穂あたりの粒数を数えました。集計した結果ひと株あたりの穂の数は13本、粒数は120粒という事で昨年、一昨年よりはやや良い作柄でした。あとは稲刈りまでの天候が順調であることを願うばかりです。

かかしは山に入って先ず真竹を切り出しました。その竹で骨組を作り、衣装を着せ、藁を詰めて形を整えました。全部で6体作り、田んぼ

に立てました。とても魅力的なかかしも立ちました。午後、鳥よけのテープを張って終了しました。

※今年のかかしたちは来月号にて、小山町 YPP のかかしと一緒にご紹介いたします。

(参加 大人10名、小学生3名、幼児1名、報告: 網代春男 写真: 田中正彦)

小山町YPP(学校田んぼかかし作り)

2017年8月18日(金) 曇り

不安定な夏空のもと、今年は例年になくたくさんの5年生が集まってくれました。また、谷津田だよりのお知らせを見て、環境漫画家の「つやまあきひこさん」もわざわざいらしてくださり、スタッフと合わせて総勢22人でのかかし作りとなり、全部で7体のかかしを作りました。来月号にて、参加してくれた子どもたちの感想と合わせてかかしの紹介もいたします。

(参加 大人12名、中学生1名、小学生9名、

報告: 松下恵美子 写真: 稲富理枝)



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 8月13日 クマゼミ、ツクツクボウシの鳴き声を聴く(赤シャツおやし)。
- 8月18日、30日 コシユケイの幼鳥たちの行進を見る(たんぼぼ)。
- 8月21日 田や畦周辺をルリタテハがひらひらと舞う(赤シャツおやし)。

下大和田

- 8月10日 ツクツクボウシ鳴く(網代)。
- 8月14日 キンミスヒキ咲く(網代)。
- 8月25日 クズ咲く(網代)。
- 8月30日 セモズ初高鳴き(網代)。



イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

- ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。
・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼第210・211回下大和田 YPP「コシヒカリの稲刈り・脱穀」(第8・9回米づくり講座)

収穫の季節のスタート。実りの早いコシヒカリを刈ります。次いで脱穀をします。

初秋の谷津の自然を楽しみながら気持ちの良い汗を流しましょう。

日時: 稲刈り 2017年9月9日(土) 9時45分~15時 *荒天時は9月24日(土)に順延
脱穀 2017年9月23日(土) 9時45分~14時

*天候によって日程が変わることもありますので、ホームページで確認願います。特に脱穀は前日の天候も影響します。(会員の方にはメーリングでお知らせします。)

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円)

持ち物: 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費: ちば環境情報センター会員および家族 100円、一般 300円、小学生未満無料

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

▼第213回 下大和田谷津田観察会とごみ拾い

秋の花の盛期、トンボの調査も行いながら谷津を巡ります。

日時: 2017年10月1日(日) 9時45分~12時 ☆小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45(下大和田 YPPに同じ)

持ち物: 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時: 2017年9月10日(日)、9月15日(金)、10月8日(日) いずれも9時45分~14時

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上) 持ち物: 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催: ちば環境情報センター

▼第148回 小山町 YPP「コシヒカリの稲刈り」

収穫の第一歩としてコシヒカリの稲刈りをします。

日時: 2017年9月23日(土) 10:00~12:30、小雨決行

場所: 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)

主催: 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。

参加費: 100円(小学生以上、資料代など)

主催: ちば環境情報センター

編集後記 時代を超え人伝に大切にされてきた道具。偉大な画家や書家の遺した渾身の作品。。。これらには、あたかも、そこに、縁の本人が触れ、或いは描いていたかのような迫力を醸す、と、感じるものだが、たんぼに現れた案山子達は、まさに提供者の顔をも同わせるホッカホカの温もりを全身にまとい、ハッとする存在感である。この空気、「田の実り拝借 o(^-^o」と近寄る者に伝わるに違いない! たんと実れ!(赤シャツおやし)